

「たんぼ」撲滅 官民が一体で

通称「たんぼ」と呼ばれる「売春地区」を抱えるJR町田駅南口Ⅱ相模原市上鶴間Ⅱに三十日、環境浄化を目指す県警が「相模原南署町田駅南口臨時警備出張所」を開設した。

この日、相模原市上鶴間のホテル「ラポール千寿閣」で開所式が行われた。

周辺住民などによる「相模原南連合防犯協会」(佐藤啓久会長)と相模原市、相模原南署が協議を重ねて実現した。

開設出張所警備

ないの春の売 へりづくりの町

町田駅南口

「売春行為を目的とした風俗店などが多く、か

ねてから問題視されていた。特に「たんぼ」地区は、同署の摘発によって、店舗数は最盛期の一割近くまで減った。しかし、最近になっても、風俗雑誌に店が紹介されるなど、撲滅に追いこむまでには至っていない。

そこで、周辺自治会長らが今年一月、「JR町田駅南口を明るく犯罪のない街にする連絡調整会」を発足させ、市や県警に交番設置の要望書を出すなどの活動を続けていた。交番設置には時間がかかるため、住

民、行政、警察が話し合った結果「臨時警備出張所」の設置を決めた経緯がある。

臨時警備出張所には近隣の交番の警察官が順番に巡回する。日中は毎日署員が常駐し、たんぼ地区のパトロール、取り締まりを定期的に行う予定だ。

この日の開所式で、小川

勇夫市長は「JR町田駅南口の一部は私たちにとっても非常に恥ずかしく、六十万都市にふさわしくない地域。いずれ交番を設置をして、市も(環境浄化を)実現していきたい」とあいさつし、安斉勉相模原南署長は「この周辺の浄化は最重要課題。環境浄化に努力し

ます」と話していた。



町田駅南口臨時警備出張所前で看板を持つ佐藤会長(右)と安斉署長(中)、小川市長